

# Sound Blaster

CREATIVE®  
WWW.CREATIVE.COM



# BLASTER® *Live!*

**5.1**

Getting Started



# Getting Started

## Creative Sound Blaster Live! 5.1 Creative Sound Blaster Live! 5.1 Digital Audio

本書の内容は、予告無く変更される場合があり、Creative Technology Ltd. の責務を表すものではありません。電氣的、又は、機械的の別やその形式、方法を問わず、どのような目的であれこの説明書のいかなる部分も Creative Technology Ltd. の書面による許可を得ることなく、複製したり伝送したりすることは出来ません。これには、写真複写や録音も含まれます。本書で説明されるソフトウェアは、ライセンス契約のもと供与されるものであり、ライセンス契約の条項に反してこれを使用したりコピーしたりすることは出来ません。ライセンス契約で特に許可されている場合を除き、ソフトウェアを他のメディアにコピーすることは、法律違反となります。ライセンス受諾者は、バックアップとしてソフトウェアのコピーを1部作成することが出来ます。

Copyright © 1998 - 2002 by Creative Technology Ltd. All rights reserved.

第2版

2002年10月

Sound Blaster、及びBlasterは、アメリカ合衆国、その他の国、又は、その両方でのCreative Technology Ltd.の登録商標で、Sound Blaster Live!のロゴ、Sound Blaster PCIのロゴ、EAX、Oozic、及びCreative Multi Speaker Surroundは、同社の商標です。

E-Mu、及びSoundFontは、E-mu Systems, Inc.の登録商標です。Cambridge SoundWorks、Micro Works、及びPCWorksは、Cambridge SoundWorks, Inc.の登録商標であり、PCWorks FourPointSurroundは、同社の商標です。Microsoft、MS-DOS、及びWindowsは、Microsoft Corporationの登録商標です。Dolby Laboratoriesの許可を受けて製造されています。Dolby、AC-3、Pro Logic、及びダブルDシンボルは、Dolby Laboratoriesの商標です。© 2001 Dolby Laboratories, All right reserved. その他の製品は、それぞれの所有者の商標、又は、登録商標です。

**このカードは、以下の1つ、又は、それ以上の合衆国特許を受けています。**

4,506,579; 4,699,038; 4,987,600; 5,013,105; 5,072,645; 5,111,727; 5,144,676; 5,170,369; 5,248,845; 5,298,671; 5,303,309; 5,317,104; 5,342,990; 5,430,244; 5,524,074; 5,698,803; 5,698,807; 5,748,747; 5,763,800; 5,790,837.

CREATIVE



## 目次



## はじめに

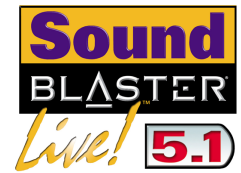
Sound Blaster Live! 5.1 の同梱品 .....	v
Sound Blaster Live! 5.1 Digital Audio の同梱品 .....	vi
システム条件の確認 .....	vi
ドライバのアップデート .....	vii
詳細情報 .....	vii
表記の規則.....	viii

## 1 ハードウェアの取り付け

用意するもの .....	1-1
Sound Blaster Live! 5.1 .....	1-1
Sound Blaster Live! 5.1 Digital Audio .....	1-2
Sound Blaster Live! 5.1 カード各部の説明 .....	1-3
オプティカル I/O カード (Sound Blaster Live! 5.1 Digital Audio のみ) .....	1-6
取り付け手順 .....	1-7
ステップ 1 : ハードウェアの取り付け準備 .....	1-7
ステップ 2 : Sound Blaster Live! 5.1 カードの取り付け .....	1-8
ステップ 3 : オプティカル I/O カード接続用デジタルケーブルの接続 (Sound Blaster Live! 5.1 Digital Audio のみ) .....	1-9
ステップ 4 : CD-ROM、又は、DVD-ROM ドライブへのケーブルの 接続 .....	1-10
ステップ 5 : 電源の接続 .....	1-11
関連周辺機器との接続 .....	1-12
Sound Blaster Live! 5.1 Digital Audio のみ .....	1-14
スピーカーシステムとの接続 .....	1-16
AV アンプ (アナログ 6ch) への接続 .....	1-18
スピーカーの配置 .....	1-20



<b>2</b>	<b>ソフトウェアのインストール</b>	
	ドライバ、及びアプリケーション .....	2-1
	注意事項：Windows 2000 をご使用の場合 .....	2-2
	アプリケーションの削除 .....	2-3
	ソフトウェアの再インストール .....	2-4
<b>3</b>	<b>Sound Blaster Live! 5.1 の使用</b>	
	Sound Blaster Live! 5.1 の使用 .....	3-1
	Creative Diagnose .....	3-1
	Surround Mixer .....	3-2
	メインデッキ .....	3-2
	ミキサーデッキ .....	3-2
	アナログ出力モードとデジタル出力モードの切り替え .....	3-3
	バス出力先変更の使用 .....	3-3
	ドルビーデジタル (AC-3) デコーディングの使用 .....	3-4
	AudioHQ .....	3-5
	SoundFont コントロール .....	3-5
	MIDI バンクの設定 .....	3-6
	インストゥルメントの設定 .....	3-7
	SoundFont キャッシュ .....	3-8
	Creative キーボード .....	3-8
	MIDI 入力 .....	3-9
	インストゥルメントのテスト .....	3-9
	EAX コントロール .....	3-10
	Creative Wave Studio .....	3-10
	Creative PlayCenter .....	3-11
	Creative Recorder .....	3-11



<b>A</b>	<b>仕様</b>	
	特徴.....	A-1
	PCIバスマスター .....	A-1
	EMU10K1™ .....	A-1
	ステレオデジタルボイスチャンネル.....	A-1
	AC '97 Codec ミキサー .....	A-2
	ボリュームコントロール.....	A-2
	ドルビーデジタル (AC-3) デコーディング .....	A-2
	Creative Multi-Speaker Surround™ (CMSST™) .....	A-2
	接続性 .....	A-3
	オーディオ入力 .....	A-3
	オーディオ出力 .....	A-3
	インタフェイス .....	A-3
	その他インタフェイス .....	A-3
	オプティカル I/O カード (Sound Blaster Live! 5.1 Digital Audio のみ) .....	A-4
	入出力、及びインタフェイス.....	A-4
<b>B</b>	<b>トラブルシューティング</b>	
	ソフトウェアのインストールに関する問題 .....	B-1
	サウンドに関する問題.....	B-2
	VIA チップセットのマザーボードの一部に見られるファイル転送の問題 ...	B-7
	不十分な SoundFont キャッシュ .....	B-9
	ジョイスティックに関する問題 .....	B-10
	I/O コンフリクトの解決方法 .....	B-10
	Windows XP での問題 .....	B-12

CREATIVE



はじめに

## はじめに

Sound Blaster Live! 5.1、又は、Sound Blaster Live! 5.1 Digital Audio はゲーム、ムービー、CD、MP3 ソング、及びその他のインターネットエンターテイメントに最良のオーディオソリューションです。Sound Blaster Live! は最先端のオーディオ規格である EAX をサポートしており、リアルで多次元的なサウンドとマルチテクスチャーの音響環境を生成して非常にリアルな 3D オーディオ体験を実現します。Sound Blaster Live! に搭載された強力な EMU10K1 オーディオプロセッサは最適な CPU の動作で最高の忠実度と絶対的な明瞭さをもたらします。5 台、又は、6 台のスピーカーと組み合わせることにより EAX 対応ゲームでリアルな 3D オーディオを体験したり、正真正銘のサラウンドサウンドで楽しんだりすることが出来ます。

将来ミュージックやオーディオコンテンツを自分で制作することをお考えならば、複数のデジタル機器やアナログ機器を同時に接続出来るようにするためのアップグレードオプションが用意されています。これらにはキーボードや他の楽器、そして MiniDisc や DAT レコーダーへの光接続が含まれます。

## Sound Blaster Live! 5.1 の同梱品



ご使用のモデルによってはパッケージにアナログ CD オーディオケーブルが付属していない場合があります。

Sound Blaster Live! 5.1 の製品パッケージの内容は以下のとおりです。

- Sound Blaster Live! 5.1 カード
- デジタル CD オーディオケーブル
- アナログ CD オーディオケーブル
- インストール CD
- クイックスタートガイド
- マニュアル (CD 内)
- ハードウェア保証書/テクニカルサポート情報 (CD 内)



## Sound Blaster Live! 5.1 Digital Audio の同梱品



ご使用のモデルによってはパッケージにアナログCDオーディオケーブルが付属していない場合があります。

- Sound Blaster Live! 5.1 カード
- デジタルCD オーディオケーブル
- アナログCD オーディオケーブル
- インストールCD
- クイックスタートガイド
- マニュアル(CD内)
- ハードウェア保証書/テクニカルサポート情報(CD内)
- オプティカルI/Oカード
- オプティカルI/Oカード接続用デジタルケーブル

## システム条件の 確認

このサウンドカードに必要な動作環境は、以下のとおりです。

- Pentium II 以上の Intel 純正 CPU、又は、同等の性能を持つ Intel Pentium 100% 互換 CPU を使用した 100% DOS/V 互換 PC
- Intel 純正のマザーボードチップセット、又は、100% 互換マザーボードチップセット
- Windows 98 SE、Windows Me (Millennium Edition)、Windows 2000 (Professional 版 SP2 以降)、又は、Windows XP
- 128MB 以上のメインメモリー
- 300MB 以上の HDD 空き容量
- PCI 2.1 仕様の空き PCI スロット 1 つ
- オプティカル I/O カード用の空きスロット 1 つ (Sound Blaster Live! 5.1 Digital Audio のみ)
- 空いている (シェアリングしていない) 使用可能な IRQ 1 つ
- ヘッドフォン、又は、アンプ内蔵スピーカー (別売)
- ソフトウェアインストール用の CD-ROM ドライブ



- インターネットにアクセス可能な環境(オンラインユーザー登録やドライバのアップデートの為に必須)

Sound Blaster Live! は、選択したハードディスクでインストールに必要なディスク容量の概略値をインストール画面で表示します。アプリケーションの中には上に示した値を超えるものもあるかもしれません。オンライン文書(READMEやHELPファイル)を参照して詳細な仕様をご確認下さい。パッケージに含まれているアプリケーションによっては、基本的な機能を使用するのにより高度のシステム環境やマイクが必要になる場合があります。詳細はそれぞれのアプリケーションのオンラインヘルプを参照して下さい。

## ドライバのアップデート

最新のドライバのアップグレードは必要に応じて行なわれ、すぐにダウンロード(注:全てのアプリケーションがダウンロード出来るわけではありません。webでは、必要最小限のドライバアップデートに限定されます。)出来るので、カードを常に最新の状態に保てます。

## 詳細情報

MIDI仕様やコネクタピンの割り当て、そしてオーディオパッケージに含まれるさまざまなアプリケーションの使用方法については、オンラインのヘルプを参照して下さい。

<http://japan.creative.com> では購入方法、テクニカルサポート、最新ドライバの更新などに関する情報が提供されます。

## 表記の規則

このガイドでは必要な情報を探しやすくするために以下の表記規則が使用されています。



ノート型のアイコンは特に重要な情報を示しており、作業を続ける前に考慮しておく必要があります。



アラーム時計は危険を伴う状況を避けるために役立つ注意を表します。



警告のマークは人体を傷つけたり機器に恒久的なダメージを与える危険性を表します。



# 1 ハードウェアの取り付け

# ハードウェアの取り付け

## 用意するもの

### Sound Blaster Live! 5.1

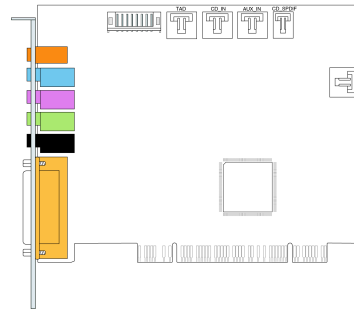
取り付けを行う前に、以下のパーツと工具がそろっているか確認して下さい。



Sound Blaster Live! 5.1 の場合は1つ、Sound Blaster Live! 5.1 Digital Audio の場合は2つの使用可能なPCIスロットが必要です。



ご使用のモデルによってはパッケージにアナログCDオーディオケーブルが付属していない場合があります。



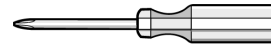
Sound Blaster Live! 5.1 カード



デジタルCDオーディオケーブル



アナログCDオーディオケーブル

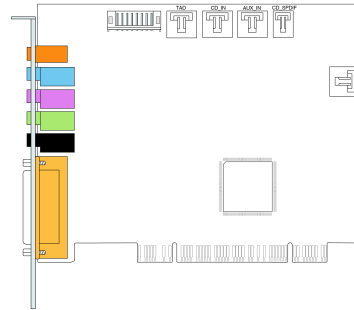


プラスドライバー  
(同梱されていません)

# Sound Blaster Live! 5.1 Digital Audio



ご使用のモデルによってはパッケージにアナログCDオーディオケーブルが付属していない場合があります。



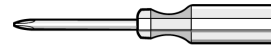
Sound Blaster Live! 5.1 カード



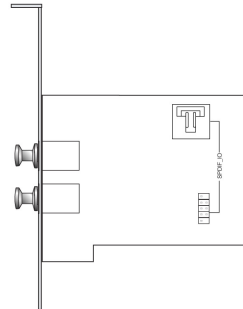
デジタルCDオーディオケーブル



アナログCDオーディオケーブル



プラスドライバー  
(同梱されていません)



オプティカルI/Oカード



オプティカルI/Oカード接続用  
デジタルケーブル

# Sound Blaster Live! 5.1 カード各部の説明

SBLive! 5.1 カードには、他のデバイスを接続することが出来る以下のようなジャックやコネクタがあります。



ライン出力ジャック、及びリア出力ジャックは、例えば Creative 製の 4.1 チャンネルスピーカーシステムに使用することが出来ます。又、アナログ/デジタル出力ジャックは、アナログモード時には 5.1 チャンネルスピーカーシステムのセンタースピーカー、及びサブウーファー (LFE) に使用することが出来ます。



各部の説明を読むには、丸で囲まれた図中の番号をクリックして下さい。

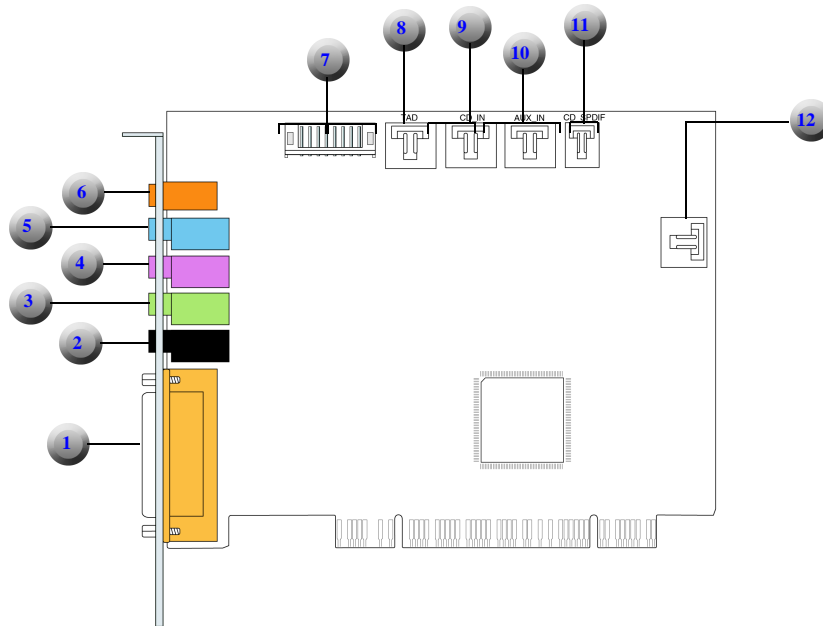


図 1-1 Sound Blaster Live! 5.1 カードのジャック、コネクタ、及びポート

表1 ジャック、コネクタ、及びポートの説明



図に戻るには [ここ](#) をクリックするか、又は、表の説明のいずれかをクリックして下さい。

番号	説明
1	<b>ジョイスティック/MIDIコネクタ</b> ジョイスティックやMIDIデバイスを接続します。
2	<b>リア出力ジャック (LIN_OUT2)</b> アンプ内蔵スピーカー、又は、外付けアンプを接続します。4.1/5.1スピーカーシステムを接続する場合は、リアスピーカーを接続します。
3	<b>ライン出力ジャック (LIN_OUT1)</b> アンプ内蔵スピーカー、又は、外付けアンプを接続します。ヘッドフォンの接続も出来ます。4.1/5.1スピーカーシステムを接続する場合は、フロントスピーカーを接続します。
4	<b>マイクフォン入力ジャック (MIC_IN)</b> 音声入力用の外付けコンデンサーマイクフォンを接続します。
5	<b>ライン入力ジャック (LIN_IN)</b> 外付けデバイス(カセット、DAT、MiniDiscプレーヤーなど)に接続します。
6	<b>アナログ/デジタル出力ジャック</b> 外部デジタル機器やデジタルスピーカーシステム接続用の6(5.1)チャンネル、又は、AC-3 SPDIF出力です。5.1アナログスピーカーシステムを接続するためのセンタースピーカー、及びサブウーファースのアナログ出力もサポートします。
7	<b>Creative 専用リザーブコネクタ (使用しません)</b>
8	<b>TAD コネクタ (TAD)</b> 標準的なボイスモデムとモノラル接続します。





図に戻るには [ここ](#)をクリックするか、又は、表の説明のいずれかをクリックして下さい。

番号	説明
9	<b>CD Audio コネクタ (CD-IN)</b> アナログCDオーディオケーブルを使用してCD-ROMやDVD-ROMドライブのアナログオーディオ出力に接続します。
10	<b>AUX コネクタ (AUX_IN)</b> TVチューナーやMPEGカードなど、コンピューターに内蔵されているオーディオソースの出力を接続します。
11	<b>CD SPDIF コネクタ (CD_SPDIF)</b> CD-ROM、又は、DVD-ROMドライブのSPDIF出力(デジタルCDオーディオ出力)を接続します。
12	<b>光デジタルI/O コネクタ</b> オプティカルI/Oカードを接続します (Sound Blaster Live! 5.1 Digital Audioのみ)。

# オプティカル I/O カード (Sound Blaster Live! 5.1 Digital Audio のみ)



オプティカル I/O カードの光デジタル入力は、ドルビーデジタル (AC - 3) の入力はサポートしていません。

オプティカル I/O カードには2つの光デジタルコネクタがあります。

**光デジタル出力 (光角型)**  
光デジタル角型コネクタを持つ MiniDisc (MD) レコーダーや DAT レコーダーなどの光デジタル対応機器に接続します。

**光デジタル入力 (光角型)**  
光デジタル角型コネクタを持つ DVD プレーヤーや CD プレーヤーなどの光デジタル対応機器に接続します。

**SPDIF\_IO**  
Sound Blaster Live! 5.1 Digital Audio に付属のオプティカル I/O カード接続用デジタルケーブルを接続します。

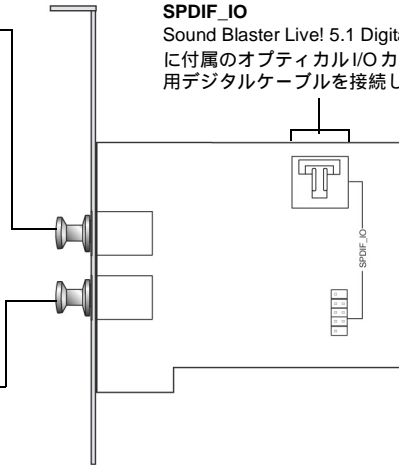


図 1-2 オプティカル I/O カード

## 取り付け手順

### ステップ1： ハードウェアの 取り付け準備



主電源を切ってコンピューターの電源コードを抜きます。ATXの電源ユニットを使用するシステムでソフトによる電源の切断を行った場合、PCIスロットへの電源供給が持続される場合があります。この際、スロットにサウンドカードを挿入するとカードを破壊する可能性があります。



既存のサウンドカードは全て取り去り、オンボードのオーディオ機能は無効にして下さい。詳細についてはお使いのコンピューターのマニュアルを参照して下さい。

1. コンピューターと周辺機器全ての電源を切ります。
2. コンピューターの金属部に触れ身体に帯電した静電気を放電し、電源コードを壁のコンセントから抜き取ります。
3. コンピューターのカバーを取り外します。
4. 空いているPCI拡張スロットから金属プレートを取り外します。ネジは後で使用するので別に保管しておきます。

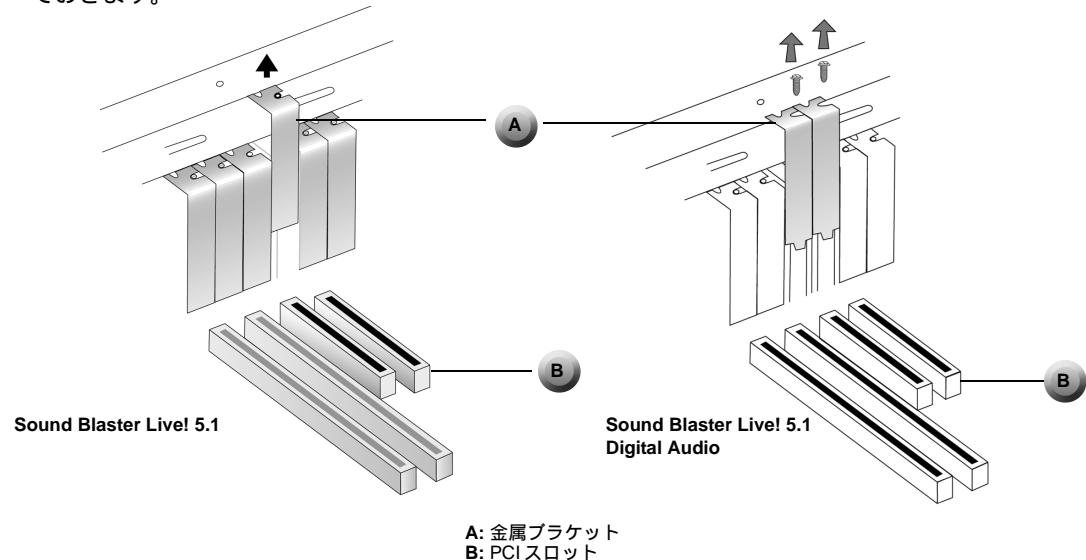


図1-3 金属プレートの取り外し

## ステップ2： Sound Blaster Live! 5.1 カードの 取り付け



カードを無理にPCIスロットに押し込まないで下さい。カードがスロット内に適切に収まらない場合は一度カードを抜き取り、スロットに挿入しなおして下さい。

1. 空いているPCI拡張スロットにカードの位置を合わせ図1-4のようにして無理な力をかけずに均等にSound Blaster Live! 5.1 カードをスロット内に押し込みます。カードが確実にPCI拡張スロット内部に収まっていることを確認します。

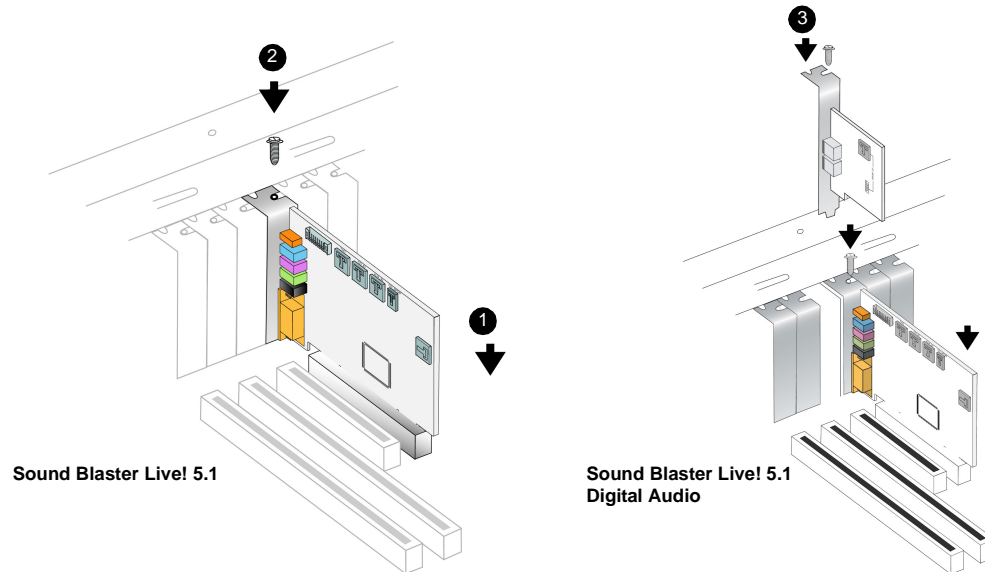


図1-4 PCI拡張スロットへのSound Blaster Live! 5.1 カードの取り付け

2. 取っておいたネジでSound Blaster Live! 5.1 カードを固定します。
3. Sound Blaster Live! 5.1 Digital Audioの場合、オプティカルI/Oカードをサウンドカードの隣のスロットに取り付け固定します。

### ステップ3： オプティカルI/O カード接続用デジタル ケーブルの接続 (Sound Blaster Live! 5.1 Digital Audioのみ)



Sound Blaster Live! 5.1 カードにケーブルを取り付ける際にはコネクタの向きに注意し、正しくケーブルを取り付けて下さい。誤った向きのままケーブルをコネクタに差したり、コネクタとケーブルが正しく接続されていない状態で使用すると故障や事故の原因となる場合があります。



重大な破損を避けるため、次の点に注意して下さい。

- オプティカルI/Oカード接続用デジタルケーブルをSound Blaster Live! 5.1カードの光デジタルI/Oコネクタに接続する
- オプティカルI/Oカード接続用デジタルケーブルをオプティカルI/OカードのSPDIF\_IOコネクタに接続する
- 同梱のオプティカルI/Oカード接続用デジタルケーブル以外のケーブルを使用してSound Blaster Live! 5.1カードとオプティカルI/Oカードを接続しない

1. 図1-5に示すようにオプティカルI/Oカード接続用デジタルケーブルをSound Blaster Live! 5.1カードとオプティカルI/Oカードに接続します。

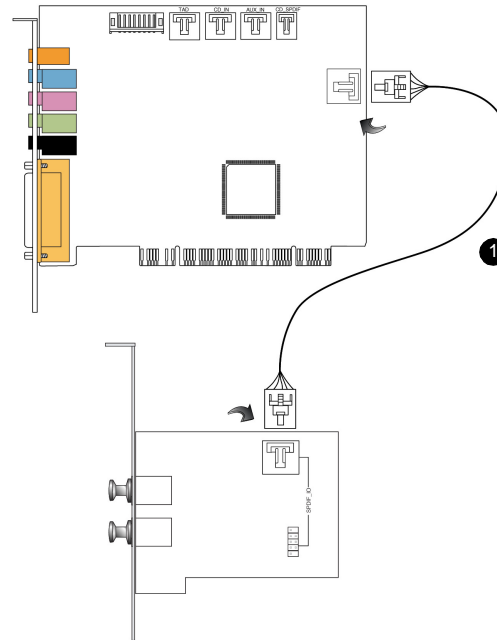


図1-5 オプティカルI/Oカード接続用デジタルケーブルの接続

## ステップ4： CD-ROM、又は、 DVD-ROMドライ ブへのケーブルの 接続



- Sound Blaster Live! 5.1 カードを CD-ROM、又は、DVD-ROM ドライブの CD\_SPDIF と CD オーディオコネクタの両方に接続する場合には、Surround Mixer で [CD (オーディオ)] と [CD (デジタル)] オプションの両方を同時に有効にしないで下さい。
- CDDA を使用する場合、アナログ CD オーディオケーブルとデジタル CD オーディオケーブルは必要ありません。
- ソフトウェア DVD プレーヤーを使用する場合、CD SPDIF コネクタは使用しません。

アナログ CD オーディオ出力の接続：

- ▶ アナログ CD オーディオケーブルを CD-ROM、又は、DVD-ROM ドライブのアナログ CD オーディオ出力コネクタと Sound Blaster Live! 5.1 カードの CD Audio (CD\_IN) コネクタに接続します。

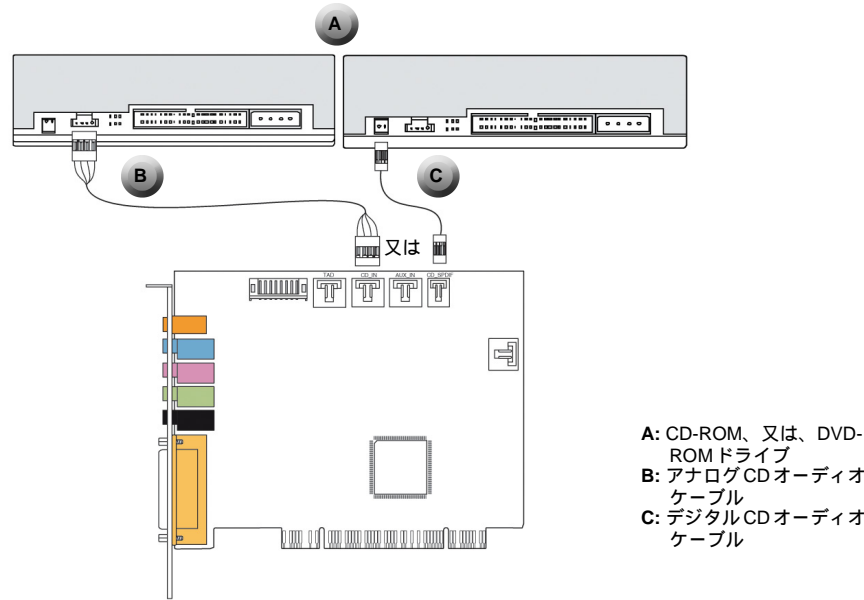
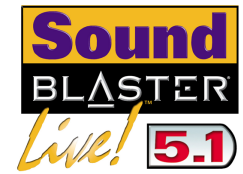


図1-6 CD-ROM、又は、DVD-ROM ドライブとの接続

デジタル CD オーディオ出力の接続：

- ▶ デジタル CD オーディオケーブルを CD-ROM、又は、DVD-ROM ドライブのデジタル CD オーディオ出力コネクタと Sound Blaster Live! 5.1 カードの CD SPDIF (CD\_SPDIF) コネクタに接続します。



## ステップ5： 電源の接続

1. コンピューターのカバーを取り付けます。
2. 電源コードをコンセントに接続し、コンピューターの電源を入れます。

Sound Blaster Live! を他のデバイスに接続する方法については、1-12ページの「関連周辺機器との接続」を参照して下さい。

ドライバとソフトウェアのインストールについては、2-1ページの「ドライバ、及びアプリケーション」を参照して下さい。

## 関連周辺機器との接続



サウンドカードのジョイスティックコネクタは、標準的なPCゲームコントロールアダプタやゲームI/Oコネクタと同一のものです。15ピンDサブコネクタが装備されたアナログジョイスティックや標準的なPCジョイスティックと互換性のあるデバイスは、全て接続出来ます。



各部の説明を読むには、丸で囲まれた図中の番号をクリックして下さい。

Sound Blaster Live! 5.1 カードにさまざまな関連周辺機器を接続し、独自のオーディオ環境を創り出すことが出来ます。接続方法は、図 1-7 を参照して下さい。

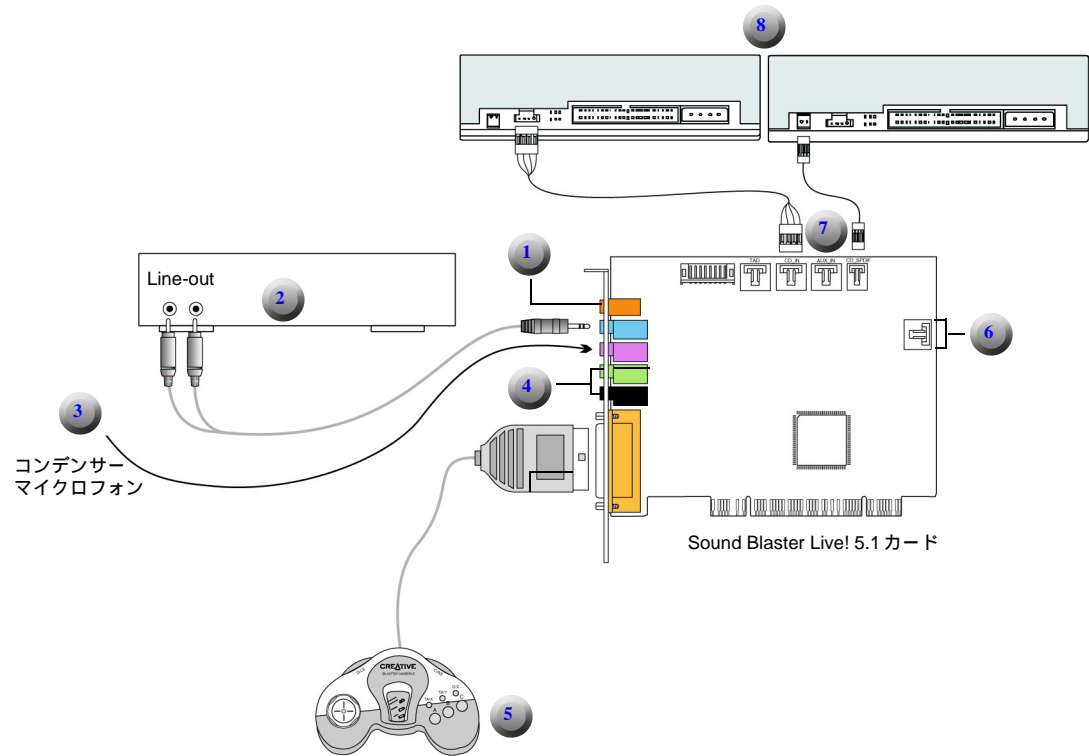


図 1-7 その他の機器の接続





図に戻るには[ここ](#)をクリックするか、又は、表の説明のいずれかをクリックして下さい。

表 2 コネクタと機器の説明

番号	説明
1	<p><b>アナログ/デジタル出力ジャック</b>  <b>アナログモード(デフォルト)</b>: センタースピーカー、及びサブウーファースのチャンネルに接続します。  <b>デジタルモード</b>: デジタルDINケーブル、又は、同軸デジタルケーブル(ミニプラグ/ピンプラグ)を使用して、デジタルスピーカー、MiniDisc、又は、DATに接続します。デジタルモードとアナログモードの切り替え方法に関する説明は3-3ページの「アナログ出力モードとデジタル出力モードの切り替え」を参照して下さい。</p>
2	<p><b>ライン入力ジャック(LIN_IN)</b>            カセット、CDプレーヤー、シンセサイザー等と接続します。</p>
3	<p><b>マイク入力ジャック(MIC_IN)</b>            マイクを接続します。</p>
4	<p><b>ライン出力(緑)、リア出力(黒)ジャック</b>            Creative製4.1/5.1chスピーカーへ接続します。</p>
5	<p><b>MIDI/ジョイスティックコネクタ</b>            ゲームパッド、又は、MIDI機器に接続します。</p>
6	<p><b>光デジタルI/Oコネクタ</b>            オプティカルI/Oカードを接続します(Sound Blaster Live! 5.1 Digital Audioのみ)。</p>
7	<p><b>アナログCDオーディオケーブル(左)、及びデジタルCDオーディオケーブル(右)</b></p>
8	<p><b>CD-ROM、又は、DVD-ROMドライブ</b></p>

## Sound Blaster Live! 5.1 Digital Audioのみ

オプティカルI/Oカードへの関連周辺機器の接続方法は、図1-8を参照して下さい。

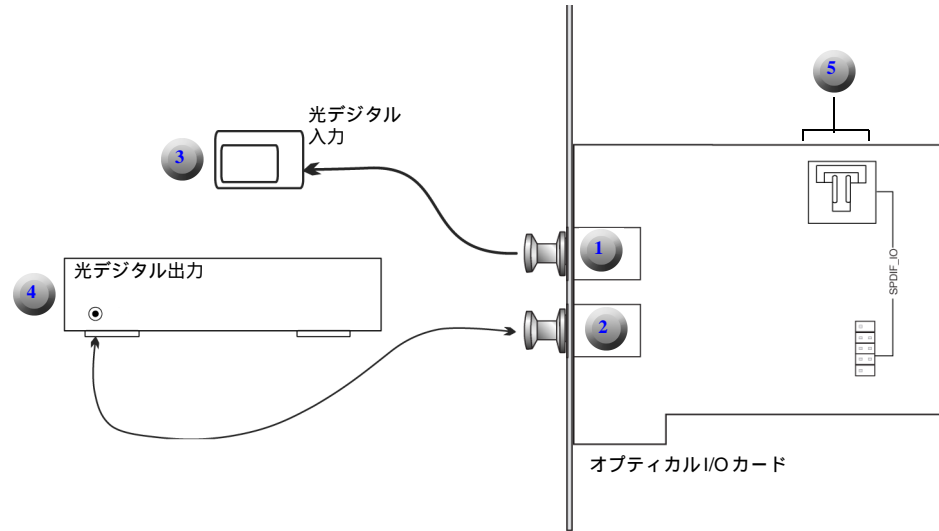


図1-8 オプティカルI/Oカードと周辺機器の接続



図に戻るには[ここ](#)をクリックするか、又は、表の説明のいずれかをクリックして下さい。

表 3 ポート、コネクタ、及び機器の説明

番号	説明
1	光デジタル出力
2	光デジタル入力
3	MiniDisc レコーダー
4	DVD プレーヤー
5	SPDIF_IO コネクタ Sound Blaster Live! 5.1 カードへ接続します。

# スピーカーシステムとの接続

Sound Blaster Live! 5.1、又は、Sound Blaster Live! 5.1 Digital Audio とソフトウェア DVD プレーヤーを組み合わせると 5.1 チャンネルサラウンドサウンドのムービーをご覧になれます。

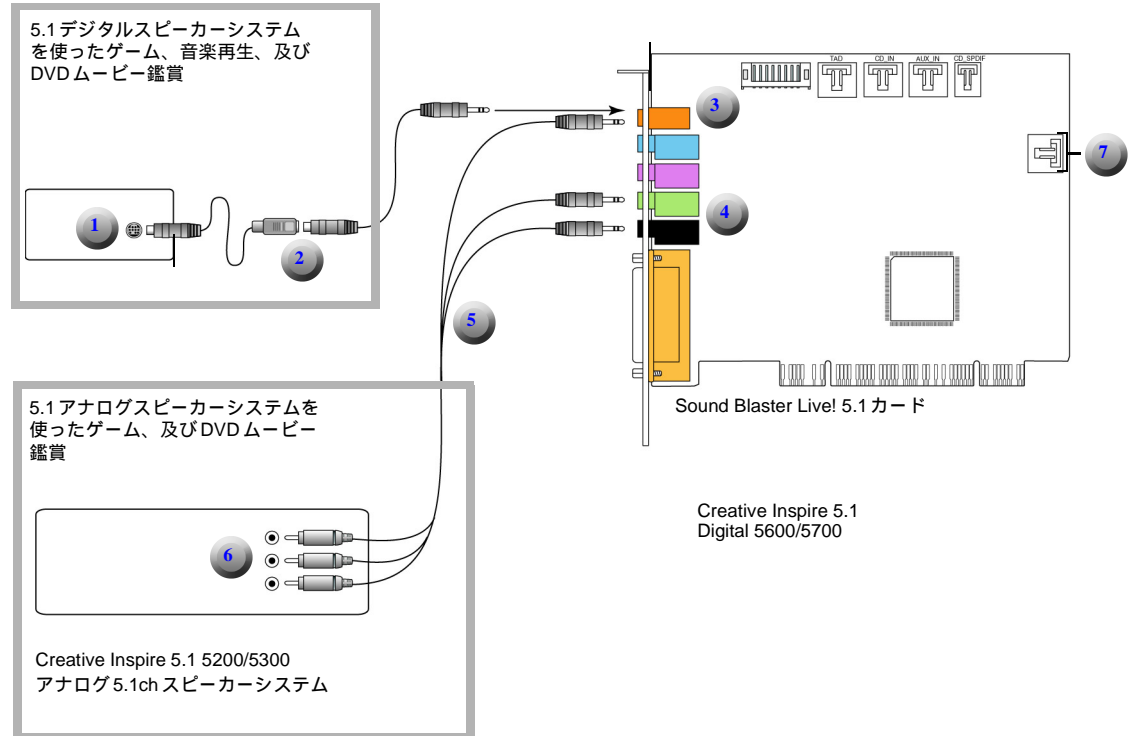


図 1-9 Sound Blaster Live! 5.1 カードとスピーカーシステムとの接続



図に戻るには[ここ](#)をクリックするか、又は、表の説明のいずれかをクリックして下さい。

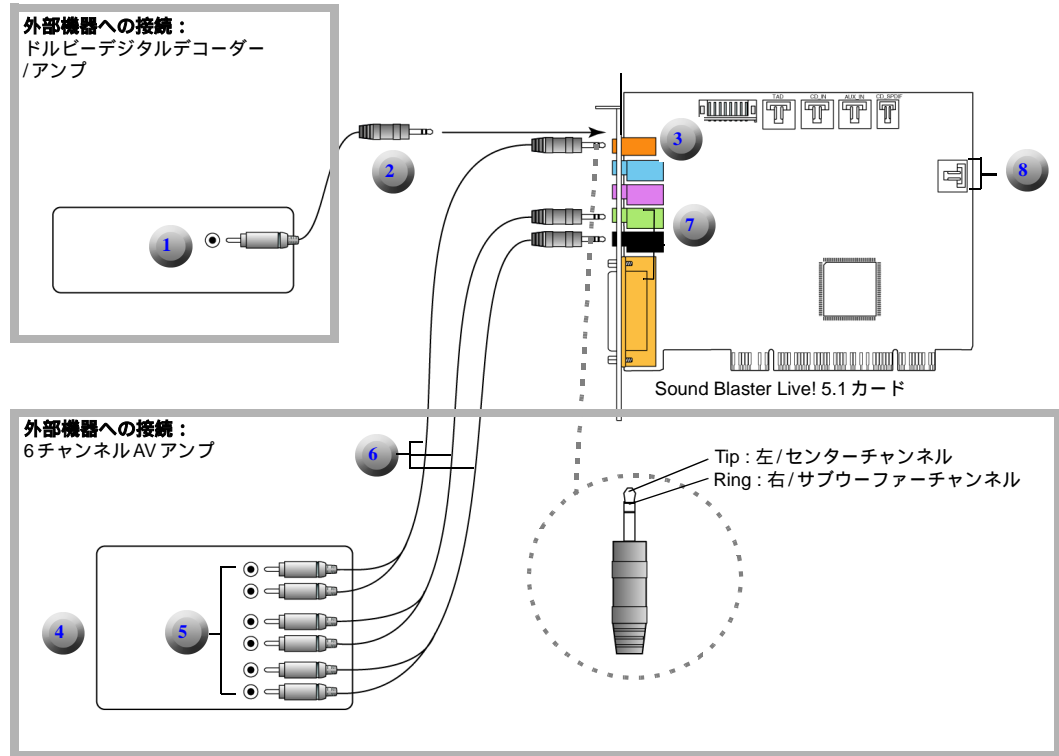
表 4 コネクタ、ケーブル、及び機器の説明

番号	説明
1	デジタルDIN入力
2	デジタルDINケーブル(スピーカーに付属)
3	アナログ/デジタル出力ジャック
4	ライン出力(緑)、リア出力(黒)ジャック
5	アナログスピーカーオーディオケーブル(スピーカーに付属)
6	フロント、リア、センター、サブウーファーのアナログ入力
7	光デジタルI/O コネクタ オプティカルI/Oカードを接続します(Sound Blaster Live! 5.1 Digital Audioのみ)。

# AV アンプ (アナログ 6ch) への接続



各部の説明を読むには、丸で囲まれた図中の番号をクリックして下さい。



## 上級ユーザーのための追加情報

ステレオミニプラグ/ピンプラグ×2オーディオケーブルを使用してセンター、及びサブウーファの入力に接続するには、白のピンプラグをアンプのセンター入力に、そして赤のピンプラグをアンプのサブウーファー入力にそれぞれ接続して下さい。

図 1-10 Sound Blaster Live! 5.1 カードと外部機器との接続



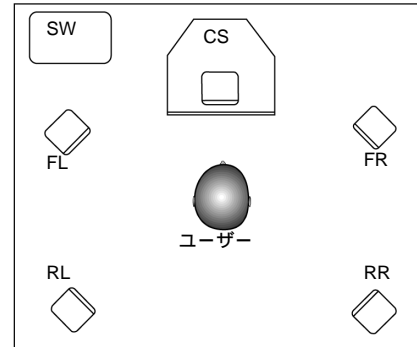
図に戻るには[ここ](#)をクリックするか、又は、表の説明のいずれかをクリックして下さい。

表 5 コネクタと外部機器の接続の説明

番号	説明
1	ドルビーデジタル(AC-3)入力
2	モノラルミニプラグ/ピンプラグケーブル(別売)
3	アナログ/デジタル出力ジャック
4	6チャンネルAVアンプ
5	フロント、リア、センター、サブウーファーのアナログ入力
6	ステレオミニプラグ/ピンプラグ×2オーディオケーブル3本(別売)
7	ライン出力(緑)、リア出力(黒)ジャック
8	光デジタルI/Oコネクタ オプティカルI/Oカードを接続します(Sound Blaster Live! 5.1 Digital Audioのみ)。

## スピーカーの配置

6台のスピーカーを使用する場合、リスナーを中心に正方形の四隅の位置に設置し、スピーカーがリスナーの方に向くようにします。コンピューターのモニターがフロントスピーカーからリスナーへの音が伝わる経路を妨げないようにします。最も気に入った位置になるまでスピーカーの相対的な位置を調整します。サブウーファーを使う場合には、最高の低音体感が得られるようにする為に、部屋の角に置きます。



- FL: フロント左スピーカー
- CS: センタースピーカー
- FR: フロント右スピーカー
- RR: リア右スピーカー
- RL: リア左スピーカー
- SW: サブウーファー

図 1-11 推奨するスピーカー配置

Creative Inspire 5.1 Digital 5600/5700 スピーカーでは、デジタルDIN 接続によって透明なゲームサウンド、及び音楽を体験出来ます。この接続に必要なデジタルDIN ケーブルがスピーカーにバンドルされています。

アナログ 5.1 チャンネルスピーカーシステム (Creative Inspire 5.1 5200/5300) を接続する場合には、Sound Blaster Live! 5.1 のセンター、及びサブウーファー出力が可能なアナログ/デジタル出力ジャックを使用します (アナログモード、及びデジタルモードの切り替えについては、3-3 ページの「アナログ出力モードとデジタル出力モードの切り替え」を参照して下さい)。

ドルビーデジタルのソフトウェアデコードには Sound Blaster Live! 5.1 以外にこのカードをサポートしたドルビーデジタル対応のソフトウェア DVD プレーヤーが必要です。





## 2 ソフトウェアのインストール

# ソフトウェアのインストール

## ドライバ、及びアプリケーション



このマニュアルのソフトウェアインストールの説明は、お使いのOSのバージョンによって異なる場合があります。インストールの画面と手順は、実際に表示されるものと異なる場合があります。



インストール中にWindows OSのCDを要求される場合があります。その際にはOSの指示に従ってインストールを進めて下さい。

Sound Blaster Live! 5.1 インストールCDには操作に必要なドライバとSound Blaster Live! 5.1 カードを最大限に活かすためのユーティリティが含まれています。Sound Blaster Live! 5.1 を使用する為には、ドライバとユーティリティをインストールする必要があります。以下に記載されているおおまかなインストール手順は、サポート対象の全てのWindowsに基本的に(一部手順の違う場合があります)共通です。

インストールCDは、マルチ言語版となっており、日本語版ソフトウェアをインストールする場合には、インストールメニューから[日本語]を選択する必要があります。日本語版ソフトウェアの中には一部、英語版プログラムが含まれています。テクニカルサポートは日本語版ソフトウェアのみ(Creative製ソフトウェアのみ)を対象とさせていただきます(他言語をインストールした場合、及び英語版ソフトウェアは非サポートです。あらかじめご了承ください)。

1. Sound Blaster Live! 5.1 カードを取り付け、コンピューターを起動すると、Windowsは自動的にサウンドカードを検出します。[新しいハードウェアの追加ウィザード]ダイアログボックスが表示されたら[キャンセル]ボタンをクリックします。ダイアログが表示されない場合は手順2に進んで下さい。
2. CD-ROMドライブにSound Blaster Live! 5.1 インストールCDを挿入します。このCDはWindowsの自動再生モードに対応しており、インストール画面が自動的に起動します。自動的に起動しない場合は、B-1ページの「ソフトウェアのインストールに関する問題」を参照して下さい。
3. 画面の指示に従ってインストールを完了させます。



図2-1 ドライバをインストールするダイアログ(画面はWindows 98 SEのもので)

## 注意事項： Windows 2000 を ご使用の場合

Windows 2000 のシステムへ Sound Blaster Live! のソフトウェアをインストール中、図のような画面が表示される場合があります。

Sound Blaster Live! のソフトウェアを正しくインストールするために、必ず以下の手順でインストールを続行して下さい。

- 図 2-2 のような画面が表示された場合：

「はい(Y)」ボタンをクリックし、インストール作業を続行して下さい。



図 2-2 デジタル署名が見つかりませんでした

- 図 2-3 のような画面が表示された場合：

「キャンセル」ボタンをクリックして、インストール作業を続行して下さい。

**注意：**ここで誤って Windows 2000 CD-ROM を挿入した場合、Sound Blaster Live! のソフトウェアが正しく動作しないことがあります。そのような時は、もう一度 Sound Blaster Live! のソフトウェアをインストールし、図 2-3 の画面が表示されたときにあためて「キャンセル」ボタンをクリックして下さい。

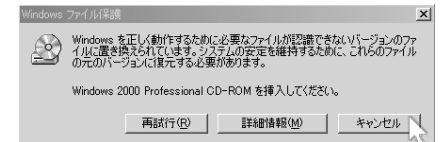


図 2-3 Windows ファイル保護

## アプリケーションの削除



Windows の種類によって[コントロールパネル]を表示させる操作が異なります。お使いの Windows 上での操作の詳細は Windows のオンラインヘルプをご覧ください。



Windows XP の場合は、[プログラムの追加と削除] (Windows 2000 の場合は、[変更/削除]) になります。画面上のメニューやダイアログボックス、ボタン等の表記は、Windows の種類によって異なる場合があります。実際の操作はお使いの Windows 上での表示/表記に合わせ行って下さい。

問題を解決したり、コンフィギュレーションを変更したり、バージョンを更新するためにアプリケーションを再インストールする前に、下記の手順でアプリケーションを完全に削除して下さい。

アプリケーションをアンインストールするには：

1. Sound Blaster Live! 5.1 カードのアプリケーションを起動している場合は終了させます。このアプリケーションには、タスクバーに常駐している Sound Blaster Live! 5.1 アイコンも含まれます。アンインストール中に起動しているアプリケーションは削除されません。
2. [スタート]、[設定]、[コントロールパネル]の順にクリックします。
3. [アプリケーションの追加と削除] アイコンをダブルクリックします。  
[アプリケーションの追加と削除のプロパティ] ダイアログボックスが表示されたら [Sound Blaster Live!] を選択し、[追加/削除] ボタンをクリックします。
4. [Install Shield Wizard] から、[削除] チェックボックスをクリックします。
5. 全てのアプリケーションが削除されます。この [Install Shield Wizard] では、[削除] 以外にも [変更]、及び [修正] も出来ます。詳細は [Install Shield Wizard] 画面の説明をご覧ください。
6. [OK] ボタンをクリックして [アプリケーションの追加と削除のプロパティ] ダイアログボックスを閉じます。
7. コンピューターの再起動を要求された場合は再起動します。

## ソフトウェアの再インストール

オーディオドライバの破損が考えられる場合は、インストールCDから再度ソフトウェアをインストールします。これは[Install Shield Wizard]を使います。

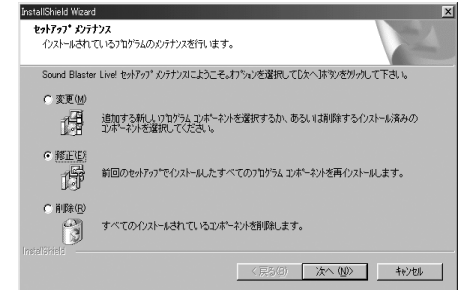
1. CD-ROMドライブにインストールCDを挿入します。

このCDはWindowsの自動再生モードに対応しており、自動的に起動します。

自動的に起動しない場合はB-1ページの「ソフトウェアのインストールに関する問題」を参照して下さい。

2. [Install Shield Wizard]ダイアログボックスが表示されたら[修正]ボタンをクリックします。

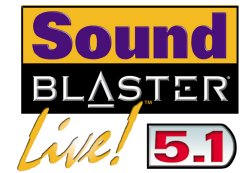
3. 画面の指示に従ってインストールを完了させます。





# 3

## Sound Blaster Live! 5.1 の使用



# Sound Blaster Live! 5.1 の使用

---

## Sound Blaster Live! 5.1 の使用

さまざまなソフトウェアが Sound Blaster Live! 5.1 を支え、Sound Blaster Live! 5.1 を最大限に活かすためのお手伝いをします。

- Creative Diagnose
- Surround Mixer
- AudioHQ
  - SoundFont コントロール
  - Creative キーボード
  - EAX コントロール
- Creative Wave Studio
- Creative PlayCenter
- Creative Recorder

Sound Blaster Live! 5.1 に含まれるソフトウェアの詳細な操作方法は、使用するソフトウェアのオンラインヘルプで説明されています。

Creative ソフトウェアアプリケーションを起動するには：

1. [スタート]、[プログラム]、[Creative]、[Sound Blaster Live!] の順にクリックし、起動したいアプリケーションをクリックします。

## Creative Diagnose

Creative Diagnose を使うと使用するオーディオカードの Wave、MIDI、又は、CD のオーディオ再生、録音、及びスピーカー出力に関する機能を短時間でテスト出来ます。

# Surround Mixer



Surround Mixer をオリジナルの設定に戻すには、[スタート]ボタン、[プログラム]、[Creative]、[Sound Blaster Live!]、[Creative Restore Defaults]の順にクリックします。

Creative Surround Mixer は、Sound Blaster Live! 5.1 カードの各種の状態を設定したり管理する中枢神経です。これはメインデッキとミキサーデッキという2種類のデッキで構成されています。



## メインデッキ

メインデッキの左側にある2つのボタンにより、2種類のビューを切り換えることができます。

- EAXでは自分専用のオーディオ環境を作成し、音源をスピーカーの設定空間に設置出来ます。
- スピーカービューではスピーカー設定を選択し、スピーカーの出力をテスト出来ます。

## ミキサーデッキ

ミキサーデッキでは、下記の操作を行えます。

- 各種のオーディオ入力ソース、及び出力ソースの選択。
- オーディオ入力ソースの音量レベルを調整。
- トレブルとバスレベル、フロント/リアバランス、又は、左/右バランスの調整。

Surround Mixer で実行可能な内容の詳細についてはオンラインヘルプを参照して下さい。



## アナログ出力モードとデジタル出力モードの切り替え

Sound Blaster Live! 5.1 カードのアナログ/デジタル出力ジャックは、センタースピーカーとサブウーファーにオーディオ出力(アナログ)するようになっています。6チャンネルのデジタル出力やエンコード(圧縮) AC-3 (ドルビーデジタル) SPDIF 出力を使用出来るようにするには、以下の手順に従って下さい。

1. Surround Mixer のメインデッキで[スピーカー] ボタンをクリックします。
2. [スピーカー] ビューで[デジタルアウトのみ] チェックボックスをクリックして選択します(ヘッドフォンモードを除く全てのスピーカーモードで使用出来ます)。

別の方法として以下の手順を使用することも可能です。

1. Surround Mixer のミキサーデッキで[ボリューム] コントロールの上にある赤いプラス(+ )の記号をクリックします。
2. 表示されたダイアログボックスで[デジタルアウトのみ] チェックボックスをクリックして選択します。モードの変更は[スピーカー] ビューに反映されます。

## バス出力先変更の使用

ドルビーデジタルではフルレンジのチャンネル5つとバスのみエフェツチャンネル1つが実現されます。しかし、ほとんどのマルチメディアスピーカーシステムでは通常、サテライトスピーカーは低周波数部を再現出来ません。バス出力先変更を有効にすることによりフロント、リア、及びセンターチャンネルの低周波数部の出力先を変更して低周波数エフェツ(LFE)チャンネルに加え、より深いサブウーファー出力を生成することが出来ます。

バス出力先変更を有効にするには：

1. Surround Mixer のメインデッキで[スピーカー] ボタンをクリックします。
2. 5.1 Speaker モードが選択されていない場合は[スピーカー] ビューで[スピーカー構成] ボタンをクリックし、5.1 スピーカーモードを選択します。
3. [詳細設定] ボタンをクリックします。
4. 表示されたダイアログボックスで[バスリダイレクション] ボタンをクリックします。





## ドルビーデジタル (AC-3) デコーディン グの使用

ドルビーデジタルデコーディングを有効にすることによって Sound Blaster Live! 5.1 カードはドルビーデジタルストリームを独立した6つのアナログチャンネルにデコードします。Creative Inspire 5.1 5200/5300 スピーカーシステムは、デコードされたドルビーデジタル5.1ch サウンドを再生するのに理想的なスピーカーシステムです。従ってマルチスピーカーのサラウンドサウンドを楽しむために、外部ドルビーデジタルデコーダーは必要ありません。ドルビーデジタル(AC-3)デコーディングは以下の手順で有効にします。

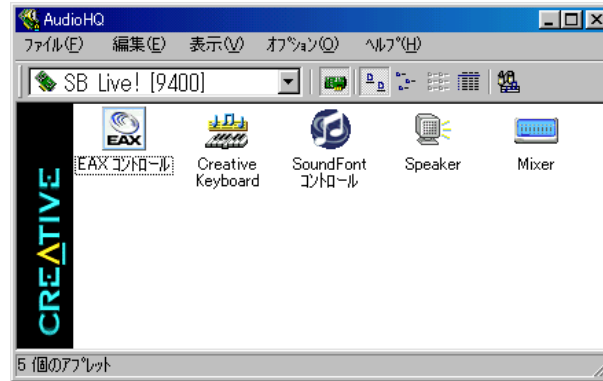
1. [スピーカー]ビューで、[デジタルアウトのみ]チェックボックスの選択を取り消します。
2. 前のセクションで説明されている手順1から手順3に従い、次に[AC-3 デコード]ボタンを押して有効にします。

ただし外部ドルビーデジタルデコーダーを使用する場合は、この機能を有効にしないで下さい。この設定ではドルビーデジタルはソフトウェアデコードされてアナログ出力されます。

アナログ/デジタル出力ジャックからドルビーデジタル(AC-3)信号を出力したい場合には(AC-3 パススルー)、忘れずに Sound Blaster Live! 5.1 カードをデジタル出力モードに設定して下さい。又、外部のデコーダーに接続するにはミニプラグ/ピンジャックアダプターと同軸デジタルケーブル(ピンプラグ)が別途必要となります。

## AudioHQ

AudioHQには複数のコントロールユーティリティが含まれ、コンピューターに接続された Sound Blaster Live! 5.1 カードを設定することが出来ます。



AudioHQは次の方法によりアクセス出来ます。

- [スタート]、[プログラム]、[Creative]、[Sound Blaster Live!]、[Creative AudioHQ]の順でクリックします。
- Windows デスクトップの右下にある AudioHQ アイコンをクリックします。

## SoundFont コントロール

SoundFont コントロールを使うと SoundFont ファイルやインストゥルメント、又は、DLS ファイルや WAVE ファイルで MIDI バンクを設定したり、キャッシュアルゴリズムやスペースを設定したり出来ます。

## MIDIバンクの設定



SoundFont ファイル用のキャッシュメモリーを最大値に設定しても SoundFont 専用の領域としてそのメモリーが確保されるわけではありません。コンピューターや他のファイルも必要に応じてその領域を使用することがあります。

MIDIバンクを設定するには：

1. SoundFont コントロールの[バンク]タブをクリックします。
2. [設定バンク]リストで設定する MIDIバンクを選択します。
3. [ロード]ボタンをクリックして MIDIバンクにお好みの SoundFont ファイルをロードします。前回にロードしたファイルが常に[バンクスタック]ボックスの最上部に表示されます。

スタックの最初が矢印で示されます。

4. SoundFont ファイルを取り替えるにはファイルをクリックし[置換]ボタンをクリックするか、又は、ファイルをダブルクリックし交換するファイルを選択します。
5. スタックからバンクを削除するには削除するバンクを選択し[クリア]ボタンをクリックします。あるバンクに派生するバンクの削除は主となるバンクを削除する以外に方法はありません。
6. 必要に応じて上の手順 3、4、又は、5を繰り返します。

SoundFont ファイルを交換する代わりにスタックしておくことによって元のサウンドに戻したり、新たに選択して使用したり出来るようになります。

元の SoundFont ファイルの上に 1つ、又は、複数のファイルをロードすることによって特定のインストゥルメントを隠すことが出来ます。

SoundFont ファイルを削除すると主となるバンクやその変形バンクの最新設定が取り除かれます。これには[インストゥルメント]タブページのインストゥルメントの最新設定も含まれます。



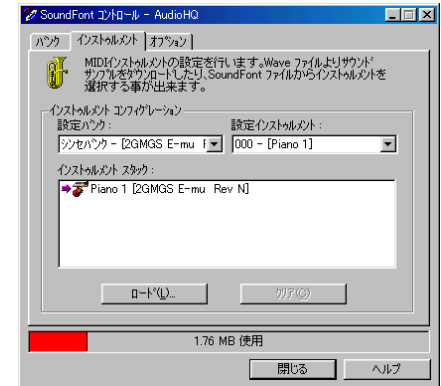
## インストゥルメントの設定

インストゥルメントを設定するには

1. [SoundFont コントロール] ダイアログボックスで[インストゥルメント]タブをクリックします。
2. [設定バンク]リストでインストゥルメントを設定するバンクを選択します。全てのバンクが選択可能です。
3. [設定インストゥルメント]リストで設定するインストゥルメントを選択します。

[インストゥルメントスタック]にインストゥルメントをロードしていなくてもこのページにインストゥルメントのエントリが表示される場合があります。インストゥルメントは[設定バンク]タブページにロードされたバンクにあります。

4. [ロード]ボタンをクリックしSoundFont、又は、インストゥルメントを単独(例えば.WAVファイル)でロードします。  
最後にロードしたファイルは常にインストゥルメントスタックの最上部に矢印付きで表示されます。
5. スタックからインストゥルメントを削除するにはインストゥルメントを選択して[クリア]ボタンをクリックします。
6. SoundFont ファイルを迅速に処理するためファイルは、メモリー内にロードされます。SoundFont に使用出来るキャッシュメモリーは最大に設定し、メモリー不足のためシステム性能が損なわれることのないようにする必要があります。



## SoundFont キャッシュ

[SoundFont コントロール] ダイアログボックスの[オプション] タブページで次のオプションを変更出来ます。

SoundFont キャッシュの大きさを設定するには：

- [SoundFont キャッシュ] スライダーを動かしキャッシュの量を設定します。

SoundFont のデバイスを変更するには：

- [オーディオデバイス] リストから新たなデバイスを選択します。



## Creative キーボード

Creative Keyboard はMIDI デバイスで作成された譜面をオーディションしたり再生することの出来るバーチャルキーボードです。



## MIDI入力

MIDI入力デバイスを選択するには：

1. [オプション]ダイアログボックスの[MIDI入力デバイス]ボックスで正しいMIDIポートをクリックします。
2. [OK]ボタンをクリックします。

これで外付けのMIDI入力デバイスを使用し作り出したサウンドをテストすることが出来ます。

外付けのMIDI入力デバイスを使ってMIDIバンクやインストールメントを試聴することも出来ます。

まずMIDI入力デバイスをSBLive!に接続し、Creativeキーボードでそのデバイスを選択します。



## インストールメントのテスト

インストールメントをテストするには：

1. Creativeキーボードでテストするバンクやインストールメントをクリックします。
2. キーボードのキーをクリックしてサウンドをテストします。外付けのMIDI入力デバイスがあればキーをクリックする代わりにこれを使う方が簡単でしょう。

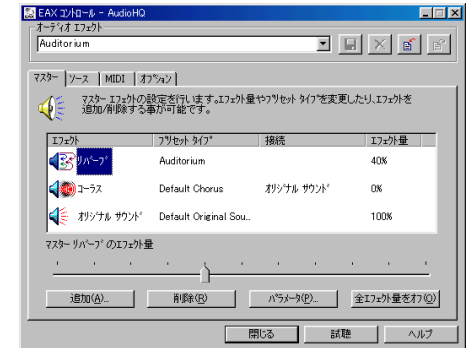
ヒント

- 複数のノートを選択して同時に再生するにはマウスの右ボタンを使ってキーをクリックします。この際キーに黒い点が付けられます。
- キーを解除するには各キーをひとつずつ右クリックするか、又は、[すべての音の停止]ボタンをクリックして同時に全て解除します。
- キーボードを移動するにはマウスでドラッグします。

## EAX コントロール

EAX コントロールにより EMU10K1 エフェクツエンジンの設定が可能となります。エンバイロメントオーディオはオーディオ要素から成り、オーディオ要素は低レベルのコンポーネントから成るわけですが EAX コントロールは、この低レベルコンポーネントを指定することが出来ます。エンバイロメントオーディオは実世界の体験をモデル化したものです。あらかじめエンターテイメント、ゲーム、コンサートホールなどのエンバイロメントプリセットがいくつか用意されています。

なお詳細についてはオンラインヘルプを参照して下さい。



## Creative Wave Studio

Creative WaveStudio は以下のサウンド編集機能を簡単に実行することが出来る Windows ベースのアプリケーションです。

- 8ビット(テープ品質)、及び16ビット(CD品質) Wave データを再生、編集、録音。さまざまな特殊効果やラップ、リバーブ、エコー、ミュート、パン、切り取り、コピー、貼り付けなどの編集操作を使用して Wave データを強化、あるいは独自のサウンドを作成。
- 複数の Wave ファイルを同時に開いて編集。
- 未加工のデータファイル(.RAW)をインポート、及びエクスポート。

詳細はオンラインヘルプファイルを参照して下さい。



## Creative PlayCenter

Creative PlayCenter は革新的なオーディオCD、及びデジタルオーディオ (MP3 や WMA など) プレイヤーです。コンピューターに保存されたお気に入りのデジタルオーディオファイルの管理に加え、オーディオCDのトラックを圧縮デジタルオーディオファイルにリッピングするためのMP3/WMA 統合エンコーダーにもなります。最大で320kbpsでトラックをエンコードすることが出来ます。



## Creative Recorder

マイクやオーディオCDといったさまざまな入力ソースのサウンドやミュージックを録音し、Wave ファイル (.wav) として保存することが出来ます。

Recorder の使い方に関する詳細はオンラインヘルプを参照して下さい。



CREATIVE



**A** 仕様

# 仕様

---

この項ではサウンドカードの仕様を示します。

## 特徴

### PCI バスマスター

- PCI仕様バージョン2.1互換
- バスマスター方式によりオーディオストリーミングのレイテンシーが解消されシステムの動作が高速化

### EMU10K1™

- ハードウェアにより向上したデジタルエフェクツ処理のアクセラレーション
- 192dBのダイナミックレンジを維持した32ビットのデジタル処理
- 最高品質のオーディオ再生を実現する特許を受けた8ポイント補間
- ハードウェアによる64ボイスのウェーブテーブルシンセサイザー
- プロ品質のデジタルミキシング、及びイコライザー処理
- 最大32MBのサウンドサンプルをコンピューターのメインメモリーにマップ

### ステレオデジタル ボイスチャンネル

- 16ビット全二重動作
- ステレオ、モノラル両モードで16ビット、及び8ビットでデジタル化
- それぞれ任意のサンプリングレートで64のオーディオチャンネルを再生
- 8、11.025、16、22.05、24、32、44.1、及び48kHzのレコーディングサンプリングレート
- 8ビット、及び16ビットレコーディングのディザリング



## AC '97 Codec ミキサー

- EMU10K1 のオーディオソースと CD オーディオ、ライン入力、マイクロフォン、Aux、そして TAD などのアナログソースをミキシング
- 録音する入力ソースやさまざまなオーディオソースのミキシングを選択可能
- アナログ入力を 48kHz サンプルレート / 16 ビットでアナログデジタル変換

## ボリューム コントロール

- ソフトウェアによりマスターやデジタルボイス、そして MIDI デバイス、CD オーディオ、ライン入力、マイクロフォン、Aux 入力、PC スピーカー、SPDIF、Wave/DirectSound デバイス、CD デジタル (CD SPDIF) からの再生をコントロール
- バスとトレブルを個別にコントロール
- フロントとリアのバランスをコントロール
- 再生するソースのミュート

## ドルビーデジタル (AC-3) デコーディング

- ドルビーデジタル (AC-3) をアナログ 5.1 チャンネルで出力
- Bass Redirection で重低音再生を強化

## Creative Multi- Speaker Surround™ (CMSS™)

- バーチャルサラウンドテクノロジー
- プロクオリティのパンニング、及びミキシングアルゴリズム

## 接続性

### オーディオ入力

- リアブラケット上のステレオミニジャックによるラインレベルのアナログライン入力
- リアブラケット上のミニジャックによるモノラルマイクアナログ入力
- カード上の4ピン Molex コネクタによるラインレベルの CD\_IN アナログ入力
- カード上の4ピン Molex コネクタによるラインレベルの AUX\_IN アナログ入力
- カード上の4ピン Molex コネクタによるラインレベルの TAD アナログ入力
- カード上の2ピン Molex コネクタの CD\_SPDIF デジタル入力

### オーディオ出力

- リアブラケットのミニジャックによるアナログ/デジタル出力
  - アナログ出力：センターチャンネル、及びサブウーファーチャンネル
  - デジタル出力：SPDIF デジタル出力 (デジタル DIN コネクタ使用時)、及び AC-3 パススルー出力
- リアブラケットのステレオミニジャックによるライン出力、及びリア出力
- ライン出力でステレオヘッドフォン (インピーダンス 32 オーム) をサポート

### インタフェイス

- D-Sub15 ピンジョイスティック /MIDI インタフェイス

### その他インタフェイス

- オプティカル I/O カード接続用光デジタル I/O コネクタ



## オプティカル I/O カード (Sound Blaster Live! 5.1 Digital Audio のみ)

### 入出力、及び インタフェイス

- 1個の光デジタル(光角型)入力
- 1個の光デジタル(光角型)出力
- Sound Blaster Live! 5.1 カード接続用 SPDIF\_IO コネクタ



**B** トラブルシューティング

# トラブルシューティング

## ソフトウェアのインストールに関する問題



Windows 2000、及びXPは、OSの仕様上デフォルトで[自動再生]が有効になっている為、[自動挿入]チェックボックスは表示されません。

**Windows 環境でCD-ROM をドライブに挿入しても自動的にインストールプログラムが起動しない。**

Windows の自動再生機能が有効になっていない可能性があります。

*自動挿入機能を使用して自動再生を有効にするには(Windows 98 SE、Windows Me のみ)*

1. [スタート]、[設定]、[コントロールパネル]の順にクリックします。
2. [コントロールパネル]の[システム]アイコンをダブルクリックします。
3. [システムのプロパティ]ダイアログボックスの[デバイスマネージャ]タブをクリックし、CD-ROMドライブを選択します。
4. [プロパティ]ボタンをクリックします。
5. [プロパティ]ダイアログボックスの[設定]タブをクリックし[自動挿入]チェックボックスが選択されていることを確認します。
6. [OK]ボタンをクリックしてダイアログボックスを終了します。



## サウンドに関する問題



システムに重大な問題が発生する事をさける為、十分なBIOSに関する知識と操作経験がない場合には、ご自身でBIOSの変更は行わないで下さい。

### **IRQが競合しています。**

IRQの競合を解決するには以下を試して下さい。

- サウンドカードを別のPCIスロットに取り付けます。
- システムBIOSで[アドバンスコントロール]、及び[IRQ共有]を許可するパワーインタフェースを有効にします。

### **オーディオファイルが再生されたとき予期しない過剰な環境サウンド、又は、エフェクトが生じた。**

不適切な環境プリセットが選択されている可能性があります。

適切な環境に切り換えるには：

1. [AudioHQ]から[EAXコントロール]を開きます。
2. オーディオエフェクトの[No effects]、又は、適当な環境を選択します。

### **ヘッドフォンから音が出ない。**

以下を確認して下さい。

- ヘッドフォンがライン出力(LIN\_OUT1)ジャックに接続されていること。
- サラウンドミキサーのメインデッキでスピーカーの選択が「ヘッドフォン」になっていることを確認します。
- サラウンドミキサーのメインデッキでレコーディングソースの選択が「再生リダイレクト(What U Hear)」になっていることを確認します。



#### 4スピーカー配置ではリアスピーカーからの音が出ない。

以下を確認して下さい。

- リアスピーカーがカードのリア出力(LIN\_OUT2)ジャックに接続されていること。
- 以下のいずれかのソースからサウンドを再生している場合
  - CD Audio
  - Line In
  - TAD
  - Auxiliary (AUX)
  - マイクロフォン

問題を解決するには：

1. Surround Mixer の[再生コントロール]で再生しているソースのチェックボックスのミュートが解除され、そのソースが有効となっていることを確認します。
  2. 録音のソースと同じソースを選択します。  
例えばDVDゲームのプレイやDVDムービーの再生を行っている場合は、Surround Mixerで Auxiliary デバイスのミュートを解除し、録音ソースとして Auxiliary デバイスを選択して下さい。
- 環境を変更した場合はアクティブなソースのミュートが解除されていることを Surround Mixer で確認して下さい。

### **スピーカーから音が出ない。**

以下を確認して下さい。

- まず最初にスピーカーがサウンドカードの出力に接続されていることを確認します。次に、正しいソースのミュートが解除されていることを Mixer デッキで確かめます。それでもまだ音が聞こえない場合は VOL つまみの上にある赤いプラス記号をクリックし [デジタルアウトのみ] チェックボックスが選択されているかどうか確認します。このチェックボックスが選択されている場合は [デジタルアウトのみ] モードになっているので、サウンドカードからの音を聞くにはデジタルスピーカーを接続しなければなりません。詳しくは、Surround Mixer オンラインヘルプの [デジタルアウトのみ] の項を参照して下さい。

### **.wav ファイルやMIDI ファイル、AVI クリップなどのデジタルファイル再生時、オーディオが出力されない。**

可能性のある原因は、以下のとおりです。

- スピーカーのボリュームつまみが適切に設定されていない。
- 外付けアンプ、又は、スピーカーが誤ったジャックに接続されている。
- ハードウェアコンフリクトが起こっている。
- Surround Mixer の [メインデッキ] でスピーカーが正しく選択されていない。
- EAX コントロールの [マスター] タブ、又は、[ソース] タブ、あるいはその両方のページで [オリジナルサウンド] スライダーが 0% に設定されている。

以下を確認して下さい。

- スピーカーの音量コントロールノブがある場合、中程度の範囲にします。Creative Mixer を使うと必要に応じて音量を調整出来ます。
- アンプ内蔵スピーカー、又は、外部アンプはカードのライン出力、又は、リア出力ジャックに接続します。

- カードと周辺機器がコンフリクトを起こしていないこと。B-10 ページの「I/O コンフリクトの解決方法」を参照して下さい。
- スピーカー、又は、ヘッドフォンに対応する[スピーカー構成]の選択。
- [EAX コントロール]ダイアログの[マスター]、及び[ソース]タブページのマスターオリジナルサウンドのエフェクト量スライダーが 100% に設定されている。

### **CD-Audio 再生時、オーディオが出力されない。**

問題を解決するには：

- CD-ROM ドライブの Analog Audio コネクタとサウンドカードの CD In コネクタが接続されていることを確認します。

### **音楽CDを再生しても音が出ない**

CD オーディオケーブルを Sound Blaster Live! に接続せず、PCIバス経由で音楽CDを聴くには、デジタルCD再生が有効になっている必要があります。下記の手順に従ってデジタル再生を有効にして下さい。

*Windows 98 SE の場合*

1. [スタート]をクリックしてスタートメニューを開きます。
2. [設定]、[コントロールパネル]の順にクリックし、コントロールパネルを開きます。
3. コントロールパネル内の[マルチメディア]アイコンをダブルクリックします。
4. [マルチメディアのプロパティ]のダイアログボックスの中から[音楽CD]タブを選択します。
5. [このCD-ROM デバイスでデジタル音楽CDを使用可能にする]のチェックボックスにチェックをします。
6. [OK]をクリックします。



ドライブ(CD-ROM、DVD-ROM、CD-RW、DVD-RAM等)のモデルによっては、デジタルCD再生に未対応場合があります。お使いのドライブがこの機能をサポートしているか事前にご確認下さい。

- PCMCIA カードの ATA コントローラー経由で接続される外付けCD/DVD-ROMドライブの中にはデジタルCD再生に対応していないものもありますのでご注意ください。
- 音楽CD再生時のボリュームは Creative Audio Mixer 中の Wave/MP3 になります。

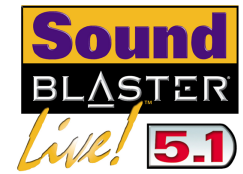


#### *Windows Me の場合*

1. [マイコンピュータ]のアイコンを右クリックします。
2. [プロパティ]をクリックします。
3. [システムのプロパティ]ダイアログボックスの中から[デバイスマネージャ]タブをクリックします。
4. [DVD/CD-ROM ドライブ]アイコンをダブルクリックします。
5. お使いになっているドライブの名前が表示されますので名前の上で右クリックします。
6. [プロパティ]をクリックします。
7. [プロパティ]タブをクリックし、ダイアログボックスを開きます。
8. [このCD-ROM デバイスでデジタル音楽CDを使用可能にする]にチェックします。
9. [OK]をクリックします。

#### *Windows 2000/XP の場合*

1. コントロールパネルを開きます。
2. コントロールパネルの中にある[システム]アイコンをダブルクリックします。
3. [システムのプロパティ]ダイアログボックスの中の[ハードウェア]タブをクリックします。
4. [デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。
5. [DVD/CD-ROM ドライブ]アイコンをダブルクリックするとお使いのドライブの名前が表示されます。
6. ドライブ名の上で右クリックします。
7. メニューが現れたら[プロパティ]をクリックします。
8. [プロパティ]タブをクリックし、ダイアログボックスを開きます。
9. [このCD-ROM デバイスでデジタル音楽CDを使用可能にする]にチェックします。
10. [OK]をクリックします。



### **ソースをパニングすると音が消えることがある。**

この状態は[デジタルアウトのみ]モードで Surround Mixer 以外のソフトウェアミキサーアプリケーション(例えば Windows Volume Control アプリケーション)を使って、音源の左右バランスを Surround Mixer のメインデッキの音源をパンする位置と比較して反対側に設定したときに発生します。例えば、Windows Volume Control の CD オーディオバランスが左側で Surround Mixer では CD オーディオを右側にパンするような場合です。

問題を解決するには：

- Surround Mixer 以外のミキサーを開き、全てのオーディオ入力ソースのバランスを中央に戻します。これで Surround Mixer でソースをパニングしても音が消えることはなくなります。

Sound Blaster Live! カードを VIA チップセットのマザーボードに取り付けるとごく一部ですが次のような問題が生じる場合があります。

**サイズの大きなデータを転送するとコンピューターが反応しなくなったり(「ハング」したり)、自動的に再起動されたり、あるいはデータが別のドライブから完全に転送されなかったり破損したりする。**

これらの問題はマザーボードに VIA VT82C686B コントローラーチップセットが組み込まれたごく一部のコンピューターに見られます。

## **VIA チップセット のマザーボード の一部に見ら れるファイル転 送の問題**

マザーボードにVT82C686B チップセットが組み込まれているどうかを確認するには：

- コンピューターのマザーボードのマニュアルを参照するか、又は
- Windows 環境の場合：

1. [スタート]、[設定]、[コントロールパネル]の順にクリックします。
2. [システム]アイコンをダブルクリックします。
3. [デバイスマネージャ]、又は、[ハードウェア]タブをクリックします。
4. [システム デバイス]アイコンをダブルクリックします。
5. 表示されたリストに図 B-1 に示されている項目が含まれているかどうか確かめます。
6. これらの項目が表示されている場合はコンピューターのカバーを取り外し、マザーボード上のVIA チップセットの場所を確かめます。

(1-7 ページの安全上の予防措置に注意して下さい)。  
VT82C686B チップセットにはチップ上にモデル番号が記載されています。

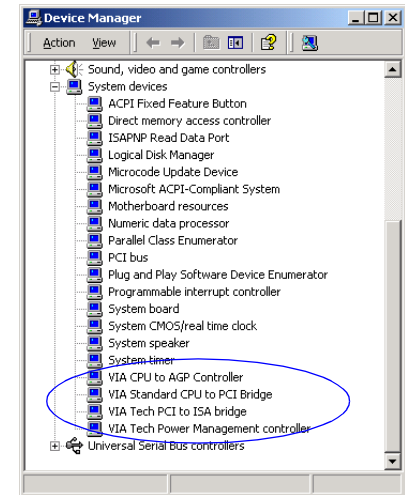


図 B-1 [デバイスマネージャ]タブ

VT82C686B チップセットが含まれている場合：

- まず最初にコンピューター販売店もしくはマザーボードの製造元に連絡し、最新の解決策を入手することをお勧めします。
- 次のいずれか、又は、両方を行うことによって上記の問題を解決することが出来る場合があります。
  - <http://www.viatech.com> から VIA 4in1 ドライバをダウンロードする
  - マザーボードの最新の BIOS を製造元のウェブサイトから入手する

これらのウェブサイトのコンテンツは他社の管理下にあります。Creative はこれらのウェブサイトから得た情報やダウンロードに対して責任を負いません。この情報はユーザーの便宜をはかることのみを目的として提供されています。

## 不十分な SoundFont キャッシュ

**SoundFonts をロードするためのメモリーが不十分である。**

SoundFonts に割り当てられたメモリーが不十分なまま SoundFont 互換 MIDI ファイルがロードされていたり再生されているとこの状態になることがあります。

SoundFont キャッシュを多く割り当てるには：

- ▶ [SoundFont コントロール] ダイアログのオプションタブページで SoundFont キャッシュスライダーを右に移動します。

割り当てられる SoundFont キャッシュはコンピューターの使用可能なメインメモリーに依存します。

コンピューターの使用可能なメインメモリーがまだ不足している場合：

- ▶ [SoundFont コントロール] ダイアログの [バンク] タブで [設定バンク] ボックスで設定されている SoundFont バンクを容量の小さいものに変更します。



## ジョイスティックに関する問題



システムに重大な問題が発生する事をさける為、十分なBIOSに関する知識と操作経験がない場合には、ご自身でBIOSの変更は行わないで下さい。

### ジョイスティックが動作しない。

サウンドカードのジョイスティックポートとシステムのジョイスティックポートがコンフリクトを起こしています。

問題を解決するには：

- ▶ サウンドカードのジョイスティックポートを無効にし、代わりにシステムのジョイスティックポートを使用して下さい。

### ジョイスティックが適切に動作しないプログラムがある。

プログラムはシステムのプロセッサタイミングを使用してジョイスティックの位置を計算する場合があります。プロセッサが高速だとプログラムがジョイスティックの位置を範囲外と推定し、誤って決定してしまうことがあります。

問題を解決するには：

- ▶ 通常BIOSの[チップセットの機能設定]セクションにあるシステムBIOS設定の8ビットI/Oリカバリタイムの値を大きくします。もし可能ならば、ATバススピードを調節してクロックを遅くするのも有効です。これでも問題が解決しない場合は別のジョイスティックをお試し下さい。

## I/O コンフリクトの解決方法



Windowsのヘルプファイルにある「トラブルシューティング」の項を参照することも出来ます。

サウンドカードと別の周辺機器が同じI/Oアドレスを使用するように設定されているとコンフリクトが発生することがあります。

I/Oコンフリクトを解決するにはWindowsのデバイスマネージャを使用してサウンドカード、又は、コンフリクトを起こしている周辺機器のリソース設定を変更して下さい。

どのカードがコンフリクトの原因となっているか分からない場合は、サウンドカードやその他の基本的なカード(例えばディスクコントローラーやグラフィックスカードなど)以外のカードを一度、全て取り外しデバイスマネージャがコンフリクトの発生を示すまで再度1枚づつカードを取り付けていきます。



Windows 環境でハードウェアコンフリクトを解決するには：

1. [スタート]ボタンをクリックし[設定]をポイントして[コントロールパネル]をクリックします。
2. [コントロールパネル]ウィンドウの[システム]アイコンをダブルクリックします。
3. [システムのプロパティ]ダイアログボックスの[デバイス マネージャ]タブをクリックします。
4. [サウンド、ビデオ、及びゲームのコントローラ]からコンフリクトを起こしているサウンドカードを選択し[プロパティ]ボタンをクリックします。コンフリクトを起こしているデバイスは感嘆符(!)で示されます。
5. [プロパティ]ダイアログボックスの[リソース]タブをクリックします。
6. [自動設定]チェックボックスが選択されていることを確認し[OK]ボタンをクリックします。
7. Windows がサウンドカード、及びコンフリクトを起こしているデバイスにリソースを割り当て直すことが出来るようにコンピューターを再起動します。

## Windows XP での問題

アプリケーションがインストールされているとWindows XP でハードウェアインストールエラーメッセージが表示される。

Microsoft 社は各ベンダーに対してMicrosoft 社による検定のためのソフトウェアを提出することを強く勧めました。ハードウェア機器のドライバが提出されなかった場合、又は、Microsoft 検定に合格しなかった場合、下図のような警告メッセージが表示されます。



Creative ドライバのインストール時にこの警告メッセージが表示されるかもしれませんがその場合は[ 続行 ] ボタンをクリックして下さい。弊社ではWindows XP 上でドライバのテストを行いコンピューターの性能を低下させ不安定にしないことを確認しています。